

「一帯一学」へ

# 共に歩まん

令和元年6月6日発行

第2号

長野県中<sup>信</sup>教育事務所

子どもが授業でこんな笑顔になるときは  
どんなときだと思う？

中信教事オリジナルキャラ「ちゅうしんくん」



「できた!」「わかった!」  
と思えたときかな?他にもある  
のかな?

## 「学びの笑顔」と出会いたい! 教師としての私ができることは?



わかって  
もらえた!

できた!  
わかった!

もっとかか  
わりたい!

「学びの笑顔」は  
偶然起きるのでは  
なく、教師からの  
働きかけがあるか  
らこそ生まれると  
思うよ。では、ど  
んな働きかけがで  
きそうかな?



自ら課題  
を見つけ

自ら考え

「私」を  
伝え

相手  
を受け止め

自分  
を見つめ

「マンドラチャート」  
を用いて、まずは子ども  
が「自ら課題を見つけ」  
られるようにするために  
私ができることを考え、  
整理してみようかな。



ねらいを明確にする	学習問題の 解き方を複数 予想する	
子どもの学 びの傾向を 見取る	自ら課題 を見つけ	
授業前の動 機づけ	大切なこと を説明しすぎ ない	

8つ全て思いつかないときは、仲間の先生に  
きいてみたらどう?



そうだね! 自分にはないアイデア  
を得られるかもね!



授業で子どもが「学びの笑顔」を浮かべるまでに、その子どもの中で起こっていた「こと」は何か、そのとき教師はどのように関わっていたか、それを確かめることは、主体的・対話的で深い学びとは何かを明らかにしていく営みだと思うよ。ぜひ考えてみてね。







[松本市立波田中学校]

新家 肇 先生

3学年（平成30年度）

「スイカプロジェクト」

～私たちの足跡を地域へ伝えよう～

「総合的な学習の時間」における目指す子どもの姿  
人と関わりながら自らの課題解決に向けて進んで  
取り組み、地域に誇りをもち地域の一員として自己  
の生き方を考えることができる子ども。

自ら課題  
を見つけ

対象との直接的な関わりから、問いをもつ

給食で地元のスイカが出ました。子どもたちは「波田地区のスイカがなぜおいしいのか」という問いをもちました。そして、波田地区のスイカについて追究していく「スイカプロジェクト」という単元が立ち上がりました。インターネットで検索したり、地域のスイカ農家のAさんへの聞き取り調査を行ったりするとともに、今年度は実際にスイカを栽培し、自分たちの作ったスイカと波田地区のスイカの甘さを比べることになりました。



なんでおいしいのかなあ。

新家先生は生活の中に見られる子どもの様子や会話に着目し、目指す子どもの姿をイメージしながら、「なぜだろう」などと、子ども自らが問いをもてる対象との直接的な関わりを大切にしました。子どもは地域の方からの多様な情報や実際の栽培活動を通して、自ら課題を見つけ、課題解決への見通しをもっていきました。このように、自分の事として課題を設定することが、子どもたちの主体的な学びにつながっていきます。

主体的  
な学び

他者との  
協働

異なる視点から他者と協働して課題解決に向かう



農家の方とは環境が違うね。

スイカ収穫後に、自分たちのスイカと農家のスイカの甘さについて、糖度計による測定を行った結果、農家のスイカと同等の糖度が出ました。その事実から「なぜ自分たちが作ったスイカが農家と同じ甘さになったのか」という新たな問いが生まれました。「自分たちが作ったスイカの土は火山灰ではないから農家の方が作っている環境とは違う」というD生の発言に対し、スイカ農家であるE生が「育て方が違うからだと思う。うちでは1本の苗木から2つのスイカを栽培しているけど、今回自分たちは苗1本から1つのスイカを収穫したことで、甘さが集約されたかも」と発言しました。

同等の糖度についての話し合いを行う中で、調査活動で知り得た火山灰に着目しながら生育環境の違いについて考え、友だちからの栽培方法という視点を取り入れながら農家の方の苦勞に気付いていきました。友だちとの話し合いにより相手を受け止め、自分にはなかった異なる多様な視点に触れることで課題解決の質を高めていきます。対話的な学びとなるには、他者との協働が大切となります。

対話的  
な学び

自己を  
見つめる

探究的な「見方・考え方」を働かせ、自己の生き方を問い続ける

D生は単元の振り返りに、「農家さんは1本の苗木から2つのスイカを育てているのに、糖度が高いのはすごい」と記述しました。改めて子どもたちは波田地区のスイカ農家のすごさを実感していました。スイカの栽培を自ら体験していく中で、スイカ栽培の苦勞に気付いたり、波田地区のスイカ農家のAさんの生き方や、地域活性化のために努力している人の活動を見聞きしたりして、スイカ栽培の大変さや農家の方々の思いや願いを再認識していきました。



このスイカは糖度が高い！

地域の名産物であるスイカについて興味や関心があまりなかった子どもが、地域のスイカを誇れるようになっていったのは、自らの課題解決に向けて農家の方の生き方に触れたことで、自己を見つめ、自己の生き方を問い続けるという探究的な「見方・考え方」を働かせたからであると考えられます。「見方・考え方」を探究的な学習の過程の中で働かせることで、より深い学びにつながっていきます。

深い  
学び



探究的な学習において、子ども自身が問いを意識していくことで、目指す子どもの姿である「自己の生き方」につながっていきますね。

その後、子どもたちは、「スイカ栽培で学んだことを地域の人に伝えたい」という思いから、ポスターを作って地域に掲示したり、来年収穫され販売されるスイカの箱にチラシを入れたりすることで、自分たちの思いを伝えられるのではないかと新しい活動に広がっていきました。

# 研修の広場 ～各種研修レポート～

学校には初任の先生、5年目・・・10年目・・・20年目・・・30年目などなど、キャリアステージが異なる様々な先生がいらっしやって、日々励んでいるよね。でも、キャリアは異なるけれど、根差しどころはみんな同じだと思うんだよね。

## 一帯一学 初任者研修 にて



生徒と共に学び、成長できる教師になりたいです。 4/16 スタート研修  
「教師になって、今の私の夢」

参観している側も引き込まれる授業で、子どもの「何で」「どうして」を上手く引き出し、解決していく授業を私もしていきたいと思いました。 5/14 授業力向上研修Ⅰ 先輩の授業を参観して

## 研究主任会 にて



日義小中学校研究主任先生方の悩み  
「小中の道徳授業をさらに充実させていくために、共通の研究の軸を何にするか・・・」

授業を終えるとき子どもがどんな「問い」をもつかに焦点を当てるのが大切だと思うけど・・・

2人が道徳の授業観を差し出し合い、互いのよさを認めつつ、語らう中で見いだしたことは「導入で子どもに学ぶ必要感をもてるようにすることの大切さ」でした。 5/14 木曾地区研究主任会

道徳授業で大切なのは振り返りまでの子どもの学びの過程だと思うけど・・・

「学校の子どもに伝える教師であるためには？」そんな「問い」を初任の先生もキャリアを積んだ先生も同様に抱いているんだね。様々な先生が悩み、考え、語り合い、学び続ける中で、自分が目指す「教師」となっていく、そんな営みをこれから紹介していくね！

# ゾーン探訪 ～約160km管内を学びでつなぐ～

## 一帯一学 北安・大町 ゾーン こんにちは！ UDリーダーさん



UDリーダーとして、松川中で何をしていますか？

「授業のユニバーサルデザイン化」に向けて、生徒の学びの実態を探っています。

どうやって生徒の学びの実態を探るのですか？

研究グループの中で「子どもの実態」を把握するための授業観察シート」を基に授業を見合ったり、生徒へのアンケート（「授業のお助けアンケート」「授業をよくするためのアンケート」）を実施したりして探ります。

生徒の学びの実態を見いだしたあと、どんな取組をしようと考えていますか？

松川中学校全職員で生徒の学びの実態を共有し、授業改善の方向を見いだします。そして、全職員で授業改善に取り組み、成果と課題を検証し、見えてきたことをゾーンの学校の先生方に広げていきたいと考えています。



私が大北ゾーン  
UDリーダー  
松川村立松川中学校 教諭  
みえだ くにゆき  
三枝 邦幸 です。  
(担当教科 技術)

《UDリーダー 三枝先生の今後の予定》  
下記の研修会に参加し、松川中学校での取組についてお伝えします。  
・7月 4日 大北地区 新任・臨任講師職員研修会  
・7月 29日 大北地区 第2回キャリアアップ研修会  
・8月 28日 松川村小中学校授業研究会（講師：宇都宮大学 久保田先生）

三枝先生、子どもと教師、教師と教師、教師と学校、学校と学校を、学びでつなぐ取組をまた教えてね。